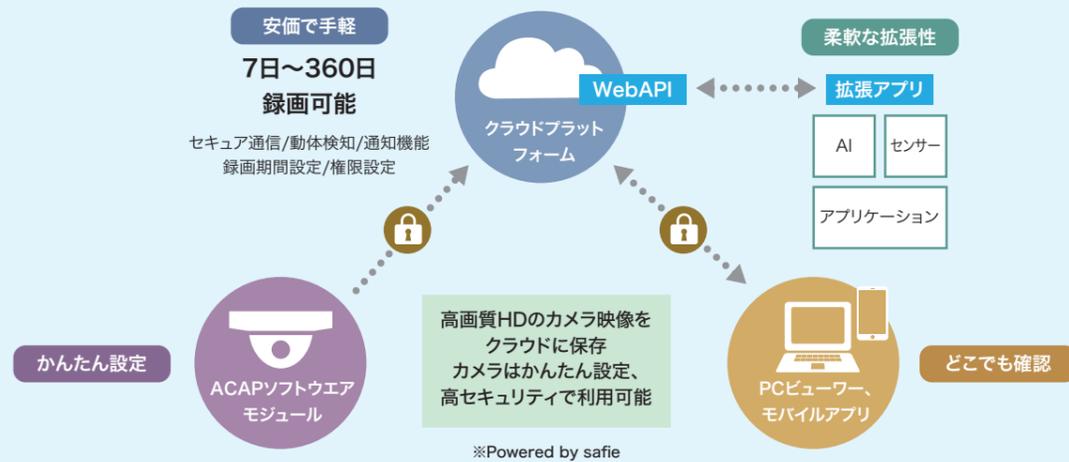


スマホやPCからいつでもどこでも確認できるクラウド型録画サービス



- 安価で手軽** 小規模・多店舗事業所に最適な安価で手軽なサービス
14日間で1,650円、30日でも2,000円のサービスで、かつHD画質で20fps以上の高画質を実現。
- かんたん設定** 超簡単設定でセキュアな通信を実現
クラウドへの接続や暗号化通信による高度なセキュリティ通信を実現。
- いつでもどこでも使える簡単操作** いつでもどこでも使える簡単操作
スマホやPCビューワーでかんたん操作。動体・音声検知アラート、動画シェア、一括ダウンロードなど、提供機能も豊富。
- 柔軟な拡張性** APIによる柔軟な拡張性
録画映像をAPIで利用が出来るため、センサーや画像解析システムとの連携も柔軟に対応出来る。

VisualStage Type-S 価格表(税別)

7日間録画	月額1,200円	90日録画	月額3,000円
14日間録画	月額1,650円	180日録画	月額4,500円
30日間録画	月額2,000円	360日録画	月額7,000円
60日録画	月額2,500円		

※最低利用期間は12か月となります。

VisualStage Type-S オプションご紹介

AI密集アラート	主な特長	1.遠隔モニタリングに加えメール通知・サイネージなどで混雑状況を配信 2.小規模から千人程度の大規模までライブ映像を解析、画像内の人数をカウント
価格(税別) 月額3,980円		

●Canon、Canonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。●本紙に記載されている会社名、商品名は、一般に各社の登録商標または商標です。●記載の内容は2021年6月現在のものです。●弊社の都合により予告なく変更させていただく場合がありますのでご了承ください。

製品に関する情報はこちらでご確認いただけます。

Home Page
キヤノン 法人のお客さまページ
canon.jp/business
キヤノン 導入事例
canon.jp/business/case

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒110-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER

2021年6月現在

●お求めは信用のある当社で

導入事例
鈴江コーポレーション株式会社様

災害時の倉庫内の状況把握を 映像による遠隔監視に切り替えて 業務効率アップと 安全面の向上を実現

物流のプロフェッショナルとして

豊かな社会を支える鈴江コーポレーション株式会社

1908年の創業から100年以上にわたって、京浜エリアを中心に迅速・安全・円滑なターミナルオペレーションや海外インフラ整備への積極的な取り組みを展開し、総合物流会社として発展を続けてきた鈴江コーポレーション株式会社。

お客様の荷物を預かっている責任から、台風などの災害が起こるたび、現場へと駆けつけることが必須となっていた同社では、カメラで遠隔監視できるシステムを導入することで、業務効率や安全性の改善を図りました。

今回の導入を指揮した取締役の茂木氏に詳しい背景や選定理由、導入後の効果などについて伺いました。

Client Profile



総合物流業

従業員:238名

※2020年3月末現在

所在地:【本 社】神奈川県横浜市西区日本大通7番地
【拠 点】21カ所

創 業:1908年12月 鈴江コーポレーション(株) 倉庫
資本金:16億円 ※2020年3月末現在

事業内容:倉庫業/港湾運送事業/貨物利用運送事業/不動産事業 他

「リアルタイムな映像で、 災害時の第一確認を効率よく安全に行いたい」



不動産事業本部 茂木 伸一郎氏

01 導入背景

災害が頻発している昨今 現場に足を運んでの状況確認が大きな負担

新型コロナウイルス感染症対策のため、世界中の国々が次々とロックダウンを実施。海外からの輸出入が減少する一方、滞留によるコンテナ不足が深刻化するなど物流業界も大きな影響を受けています。そうした中、デジタル技術を活用した物流の効率化を目指し、カメラと、いつでもどこでも確認できるクラウド型録画サービスの組み合わせによる倉庫内の遠隔監視に踏み切ったのが鈴江コーポレーションです。茂木氏が語ります。



▶業務効率化および安全性の確保が導入時の課題

「これまでは台風などの災害が起こるたび、昼夜を問わず、所長が現場まで駆けつけて倉庫内の状況把握&役員報告を行ってきましたが、災害の頻度も増える中、そうした業務フローが大きな負担に。安全面からも遠隔監視へのシフトを検討し始めたのです」。

02 選定理由

リアルタイムで見られる映像の美しさに加えクラウド型のシステムが決め手に

かねてからカメラの導入には関心を抱いていたという同社。遠隔監視を実現するためのパートナーとしてキャノンを選んだ決め手はどこにあったのでしょうか。

▶専用サーバーや録画装置が不要な クラウド型の録画サービス

「他社からの紹介でキャノンの提案を受けたのですが、スマホやPCからリアルタイムで映像を確認でき、デモで見た画質の美しさもとても満足のいくものでした。また、一番大きかったのは、VisualStage Type-Sが専用サーバーや録画装置が不要なクラウドタイプのシステムだった点です。

当社の場合、全部で21拠点あり、それぞれに複数台の装置を入れるとなると膨大なコストがかかります。比較検討した他社の提案はいずれも録画機器が必要だったこともあり、キャノンにお願いするのが最適という結論に至りました」。



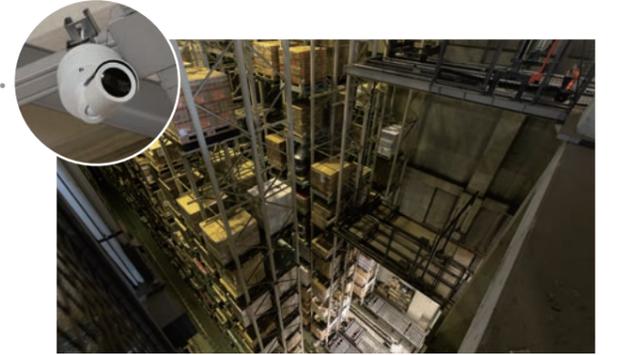
03 導入後の成果

業務効率アップと安全性確保という2つの大きな課題をクリア

▶いざという時も現場に駆けつける手間が不要に

「各現場の所長をはじめ、決まった人間に権限を与えていつでもチェックできる体制にしていますが、わざわざ現場に駆けつけることなく移動中でも簡単にスマホで確認できるようになったことで、かねてから課題だった業務効率アップにつながりました。

また、もう一つの成果が安全性の確保ですね。台風や雨の場合、現場に向くこと自体が危険を伴う場合も。そんな時もまず映像で確認し、状況が落ち着いてから訪れることができるようになり、万が一のリスクが軽減されました。あと、クラウドでメンテナンスフリーなので今後施設が増えても導入しやすいのもメリットですね。



▶不動産事業では駐車場のトラブル対応に活用

実際、当社の不動産事業のほうでももうすぐ新しいビルが建つのですが、そこらは駐車場にカメラを設置しリアルタイムで監視できるしくみをつくってトラブル対応などに活用しようと考えています。キャノンの担当の方はわからないことやちょっとしたご相談にも迅速かつ丁寧に対応していただけるので、その点でも安心ですし、とても満足しています」。

04 今後の展開

施設や倉庫内に配備されたカメラを 今後は他の用途にも活用予定

リアルタイムで遠隔監視できるシステムの導入により、災害時の倉庫内の状況把握を効率化することに成功した同社。最後に、今後の展望について伺いました。

▶他にもあるカメラ映像の活用アイデア

「施設や倉庫内に配備されたカメラの映像をチェックすれば積み荷に傷が付いていたような場合やフォークリフトの事故などの検証もできますので、今後はそういう用途でも活用していければと考えています。また、同じくカメラの映像を確認することで、働いているスタッフの動きも見えてくるはず。そういったデータを効率のよい荷物の配置にも活かしたいですね」。デジタル技術の活用で物流改革を進める同社の動きに今後も注目です。

